

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

うぶ心方忠義傳 第三輯 五

1305
18

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

善知安方忠義傳第三輯卷之五

東都

松亭金水編次



第十九回

英士忽地小曉る夢物語
東国の礼と往事の語説

そのとき七つとまゝあへてのち
當下十代田早苗今の酒三碗傾け舌うち鳴り借りて
富小うく人々産とて若あまわくは波バ和殿も師の為小百折千磨の
苦難を倣い。あの後も猶易くは然ととも義の赴く地実小止とを海ぎ係
少く悉皆ことごと天命ある。窮達小より志を易ぐるを士とつて。在下今
の柳も不足わくさる身とありん憂へを掃ふ玉帯と。唯小の美酒とさへ遠き
方より取傍て欲さるま小咬食の起居中心のまゝあきと。唯義の二字と爾然
り人倫の員あはれ雅易を測る節を俟て空しく教奉の月日を送り既

善知安方忠義傳第三輯卷之五

小耳煩を妬ねまじ。必餘命も我子あり。志を海も果さば。牖下小死さむ。
 何をりん。先人小見えんと。必一條の事と。然るに。妄小動ぐべき小わの。後。
 日夜心を痛むるの。昔本心の説法。何の經より引用あり。人の一日一夜を。經る小
 八億四千の想ひあり。と。善智歳の説き。況や六十餘りの月日。想ひの。殺の
 算敷小も。まじを。まじまじ。不積る。ぬべ。その名ひ。森の夢。あま。憑む小。甲斐
 き所為る。この春。沐生の中。旬ある。實小。曉を。覚え。む。と。古人。わの。まじ。と。
 春の宵。一睡の折り。小。何方とも。あ。未。ま。る。人。あり。年。齡。の。七。七。八。歳。容。貌。究
 め。寛雅。ある。が。徐々。と。歩。行。傍。る。その。面。貌。を。篤。と。る。小。過。去。り。一。吾。王。君
 小。その。位。あ。ま。じ。遠。く。不。測。と。怪。し。ま。え。克。わ。り。小。故。主。の。公。達。算。ふ。と。七。七。八
 小。成。り。ん。今。の。何。処。小。在。ま。る。う。その。便。宜。を。ま。し。知。ら。ざ。ま。と。故。主。の。頭。の。導
 小。測。ら。ば。濁。ま。る。り。の。あ。ら。ん。と。必。ば。漫。娘。し。て。直。さ。ぬ。と。と。迎。へ。納。ま。此

耶麻媛が妹ある。嫩といふ。年の程。かの公達。小。似。つ。り。け。ま。即。併。小。冊。注
 む。と。三。日。可。り。心。の。及。ぶ。その。疆。り。飲。侍。の。あ。け。ま。と。の。あ。る。頼。の。て。わ。り。ん。れ
 飯。初。小。出。ら。ま。じ。も。再。び。飯。り。未。ま。ら。ん。在。下。の。ゆ。え。あ。く。活。る。と。し。知
 る。や。ら。ば。その。在。所。を。尋。ね。ま。さ。と。然。あ。ら。己。が。鹿。忽。あり。と。必。ど。今。ま。甲
 斐。も。あ。嫩。の。目。と。小。狂。浮。て。わ。の。人。の。信。濃。の。玉。潮。平。と。り。所。小。潛。在。り。折
 節。の。森。物。語。小。ひ。の。ひ。き。然。ま。じ。彼。処。へ。訪。ひ。か。れ。て。その。怒。襟。を。も。啣。ん。と。歎
 く。と。理。あり。ま。ま。と。定。小。知。り。が。た。を。女。の。信。ま。き。と。う。い。し。心。利。と。信。僕。を。池
 せ。その。地。を。隈。あ。く。探。し。ま。ま。と。知。ら。ば。と。ひ。て。序。り。来。ぬ。あ。小。望。ま。と。失。ふ。の。こ
 う。渾。身。の。晚。縮。の。う。ち。腹。が。ち。任。意。面。貌。還。き。ま。り。の。み。故。主。小。克。も。信。と。ま。じ
 と。く。その。未。歴。を。問。ひ。せ。ば。妄。小。嫩。が。身。を。許。さ。を。初。の。と。れ。不。及。ぶ。と。怪。し。ま。ら。ん
 身。が。拳。効。ゆ。り。日。未。あ。ら。ぬ。の。つ。ら。小。孤。狸。小。瓢。掌。ま。ま。と。の。ひ。一。小。極。ま。り。と。ら。ん

麒麟も老くは驚馬もどに劣るといふも由ありけり。年壯ある頃まづは武門不
 わき人双あはれ勇者と自ら誇まるのころ他も如此と稱へしが今も高生疾
 怪不欺うとて最愛の嬢の身をさへ譲らざる甲斐あきてころも歎く。澤
 家嬢より己が心中何を便ふはかり。空侗とてあねるう。悔し涙不哽せ
 返り五勝日断離はらむひひん。生心地もあはれをうう。物不魔はともう。揺
 紀さとして目を受せは折謂南柯の一夢ありささともも前後定りて更の
 夢くも必りまは折申ふ潮平小人を遣へ似る折の人や潜てえわらえん。
 寝ひろんて必ひしが。ささうり後の種々の。ふふ倫まて遊せども心程少く忘
 らるる。初く和殿の物語小西條九郎高資。くは人倍々の夢の夜と濁る
 心地せう。耶麻媛が顔うらけり十五六并必最う。波起小住くはう。猿
 人語う。その人小大く疑ひあはるう。然あが。高資の既小冥土の鬼と成

り。その餘の仕方知くはく。以ては馬不恃を失ふる心地いささ。諸共小武
 運小竭む息あう。小再び環り合ひせん。若あが。餘命あはれ老くと憑
 こあけま。くは只管嗟嘆さる顔を。里見の借とら成る。ささうわ。ね
 詞の端りて前後を考ふる。小和君が故主と宜ふの察する。小その昔南海小名
 を羨む。純友のくわ。くは。と星を斥きて早苗小嬢も共不怖。くは。心程
 小泣き。くは。借と心著く声を願ま。正あき。くは。のう。小折南海の純友の
 孫報を起して朝敵とあり。一旦威勢を揮ひ。小天珠道。くは。小折あり。伴
 のふく。妹を受近き頃ま。くは。餘類を敵く。素めら。くは。今。小早霜
 推徒り。その探索も隣りのう。くは。猶との堂を尋ねら。くは。然る。くは。御内人
 と察せ。くは。小我を。くは。寛小陷。くは。ん。くは。為。くは。多。くは。得。くは。む。くは。射。くは。う。くは。張。くは。ま。くは。近。くは。平。くは。更
 小動む。色。くは。あ。くは。遠。くは。い。くは。在。くは。下。くは。鹿。くは。忽。くは。と。くは。小。くは。不。くは。然。くは。不。くは。あ。くは。くは。小。くは。防。くは。め。くは。西。くは。條。くは。高。くは。資。くは。が

弟子とある。時より。彼老人の凡者あり。彼人の僻は中と路若くは西の産
 あらうとある。事毎小。その挙動不心を著る。小遠の純友の臣下少く。其人
 となり。その所不潔泊ある。のあえと。人にて。救回ある。と。明々地。同ふ
 べき。條。小の。わ。大。任。意。ま。さ。る。察。一。の。ま。ま。人。あり。と。日。来。と。行。く。と。の。身。子。と。係
 吾。們。小。災。ひ。罹。る。と。ま。さ。る。は。お。お。右。に。日。左。に。日。わ。と。と。と。と。心。の。極。さ。ん。
 之。彼。弱。が。叙。法。武。略。赤。心。を。も。と。ま。び。う。と。彼。弱。も。ま。さ。と。二。あ。れ。老。小。慈。愛。と。い
 弟子の多る中。不在下。と。重太郎が。兄。の。で。常。々。物。の。入。小。す。り。在。下。日。ま。さ。る。と。教。ひ
 尊。と。依。と。と。遠。般。の。義。お。つ。と。ま。り。然。り。け。と。と。高。徳。父。子。が。素。性。未。歴。最。深
 く。最。む。所。あ。ら。ば。わ。終。小。云。と。若。ら。ま。と。強。人。同。ん。日。要。あ。ら。と。と。信。小。做
 一。れ。ま。と。と。彼。重。太。郎。高。純。の。翁。が。子。の。て。系。托。が。弟。あ。ら。う。と。始。め。より。披。露。の
 わ。と。と。と。の。面。貌。さ。と。と。小。翁。小。似。日。の。て。ま。さ。と。系。托。が。骨。格。小。も。志。他。と。と。所。あり。

実兄。父子。心。も。正。く。他人。と。え。め。り。あ。ら。の。世。小。珍。ら。と。ま。さ。る。と。あ。く。其。他。と。と。を
 必。く。夫。る。と。と。一。概。中。論。ま。さ。う。と。然。と。と。日。彼。父。子。親。ふ。ら。う。の。故。わ。と。と。思
 あり。と。と。察。し。と。と。り。あ。ら。係。小。今。の。夢。物。語。且。の。和。君。が。親。の。僻。西。條。氏。小。と。と。似。ら
 こ。と。より。重。太。郎。の。君。考。が。為。の。故。主。小。と。と。純。友。の。後。あ。ら。と。と。言。し。と。と。と。と。差。ひ
 あり。と。と。鹿。忽。の。辞。用。捨。あ。ら。と。と。假。令。万。一。在。下。が。察。一。の。と。と。小。の。と。と。何。を。必。く。と。と。大。恩。あ
 る。人。小。来。ま。さ。る。と。と。義。を。失。り。と。と。の。義。を。克。く。賢。察。あり。と。と。の。実。を。明。く。と。と。今。より
 和。希。と。と。心。を。念。う。と。と。高。純。主。が。性。方。も。素。直。ま。と。大。望。し。宣。う。と。と。の。故。主。の。大。志。と
 継。ぐ。と。と。あ。ら。と。と。時。宜。を。圖。つ。て。在。下。日。畏。せ。ん。と。と。勿。論。あり。と。と。努。く。勉。め。の。心。と。と。赤。心
 面。小。影。つ。と。と。と。の。の。所。毫。釐。も。差。り。ぬ。明。察。を。感。し。と。と。早。苗。小。の。面。を。和。げ
 形。を。正。し。と。と。ま。さ。る。と。と。期。明。察。を。と。と。ま。さ。る。と。と。今。更。何。を。最。む。べき。在。下。日。信
 據。縁。純。友。が。家。臣。の。て。二。の。老。と。と。知。し。と。と。と。と。伊。賀。壽。次。郎。教。索。之。御。の。故



耶麻媛の往昔の
 話説貞世
 主君小... 軍陣... 赴く

七十五貞世



まさしと

善知第三車老之五

わの純友純素也兄弟不和とありて其の兄伊賀壽太郎教久は純友君
 の方小あり在下の弟あり純素の方小別とて兄弟不和の事ひを倣し既小純
 素滅亡の事死俱小討死とて死に一旦小易く生れ百慮の中小全一安
 小死とて思とて死にとて練めらるるに圍を破り源家成圍らんとあけけ
 とて後々後仲との餘の徳法令の事嚴小入るるに恐入るるに恐入るるに
 月日と過ひりて小純友君も亡びりひその子重太九も共小殊を受るるに
 りのあが末の世子の忠義の族捨擧の事逆電とて定りおびりてその
 方と悉小揺り時を俟て故主の誓念晴まら真の忠あるとて諸を破れ
 を立りりて妻をへ遁下りるるに十代田早苗小外戚の大舅ありとて
 ち小潛に在りて初子ありてその耶麻媛ありとてその節に性方知とて次と
 男子ありとて名を十郎教為とてひけり十八歳に陳設し源家の晩稲

と兩個の事ある小偏の早苗小重き病小うら悩とて死にんとする小及び
 跡を續ぎて子ありて僕侍吾們とて小あり此家と翻て重代の職を務めよ
 とありて即ちの事任りて大舅没してより姓を云とて輝とて小府小許
 先親の事當所の陳代とありて後娘と三郎ハ彦とて夫より後世に配り故
 主の公達何とて地小潛とて入りて且暮小手と瑠とて索とて終小の使宜と
 満ち心の焦燥同ありとて如何とて珍方小然る小初子あり耶麻媛の女あり
 らとて心尋常の雄士小倍り且幼稚より武藝を修めり弓馬の道より小更
 兵法小く粗通とて親の欲とてこの女子の雄士小ありとて人のことかて十
 八の秋の頃頼小絶望とて人あり止とて満ち縁を組とて東へ下らせり後
 家の艱小罹り婿ありとて泰小日殺とて穰が性方便小初とて源家の晩稲
 且暮小ひとてね時ありとて歎とて暮れの中小彼南海の二挙起り今又如く

故郷を離れ、とて来りて身易けとて弟一君臣の義を成のころ備耶
 麻媛の世小存命と吾們を索ぬるとの世処不在と神あね身小争ぶ
 知公もあまもいづこ世の別とあまもいづこ三郎を改けの責人の
 とあまもいづこ老人の子影さあつと但言小のあまもいづこ虚弱小物の要小立
 づうもあまもいづこ果敢あつ身とあまもいづこ南海小陳没一泉下小
 忠を猶ひこ勝ありけと心さ弱るぢり不在けるを想ひ圖らぬと小
 より耶麻媛小再會一渠が年未百折千磨の若艱のあまもいづこ吾子
 あまもいづこ只管の感さるのあまもいづこ心の挂心の著き呵々のあまもいづこ笑ひ身
 の素歴を説んといづと長き物語殊小吾子と物とあまもいづこ賛のと和の殿
 心小きを福とあまもいづこ近平洋小因果の福とあまもいづこ現小純奈の
 西内小侍安壽とあまもいづこ兄弟の豪傑ありと人の傳焼の和君の南海の人

怖まじ教索り、小今在下日言以通り彼重太郎高純れとと和君が索
 り純友の末の子小教ひと既小師の高資が雅小處す死姉娘系れと
 獲らと先小その地を逃せ、あつ故ありと系とつと然けとと高純の妹
 と共小奪る小忍び、金井荷助を憑とと遠小その故を知らぬ小とつと、
 人彼人の潜む初り上野津津のに傍鬼石とつと所とと、備日彼起小居とつと、
 小掌不在小存と再命つと易とと、とつと、十代田父子習の夜明のあまもいづこ
 人を池せ直小有をを探らん、準備を做し、夏の疾つと、夏の雲井此
 月もつと、西の心き、つと、矢あふ、新も、向らぬ、曉の種の音の近のあまもいづこ
 里見の室をうち作り、と、あつ、小程もあつ、主人の旁とつと、人小疾の愁のあまもいづこ
 り、あまもいづこ、耶麻媛、東の方小孫、とつと、良人の家の艱とつと、持とつと、辛若
 小あまもいづこ、要小死野為あまもいづこ、今より存るも何と、遺憾のあまもいづこ

若ういふは語り流し。憂小沈めるを折らば身一ツ迫り来ん志あり。丈夫
 由進退の度を失ふ人まじ心願むりある。況ん女子の誠量狭く然る所不
 一に至りては。急を急ぐが如く。婦人の情と云ふ事。開を信忍び身を
 今うしく。後者の律をける。身は神人かありあか。心の丈夫は猶勝り。今
 老も主人の端容易き若患あり。是等の日月日終く昔語り
 となりぬ。おん身か。最愛と。いふある。辛若のてり。し人か。語り。愛
 き。と。慰む。端あり。いのを。疾く。語り。多。く。切。小。も。と。て。耶。麻。媛。は。自。身。見
 を。語。らん。厭。ふ。所。の。あ。ま。い。や。言。出。し。難。く。振。む。を。早。苗。今。の。傍。り。と。云
 身の素性ありけ。あまき。條。ま。心。話。説。き。え。い。援。が。患。若。の。物。が。り。争。う。厭。ふ
 て。わ。らん。然。る。が。つ。つ。長。や。う。る。倦。バ。小。び。つ。り。り。と。咳。ニ。ツ。ツ。あ。い。人。等。ふ
 ま。六。二。十。年。可。り。援。ハ。十。八。の。年。あり。東。正。小。名。を。輝。を。相。馬。小。次。郎。將。門

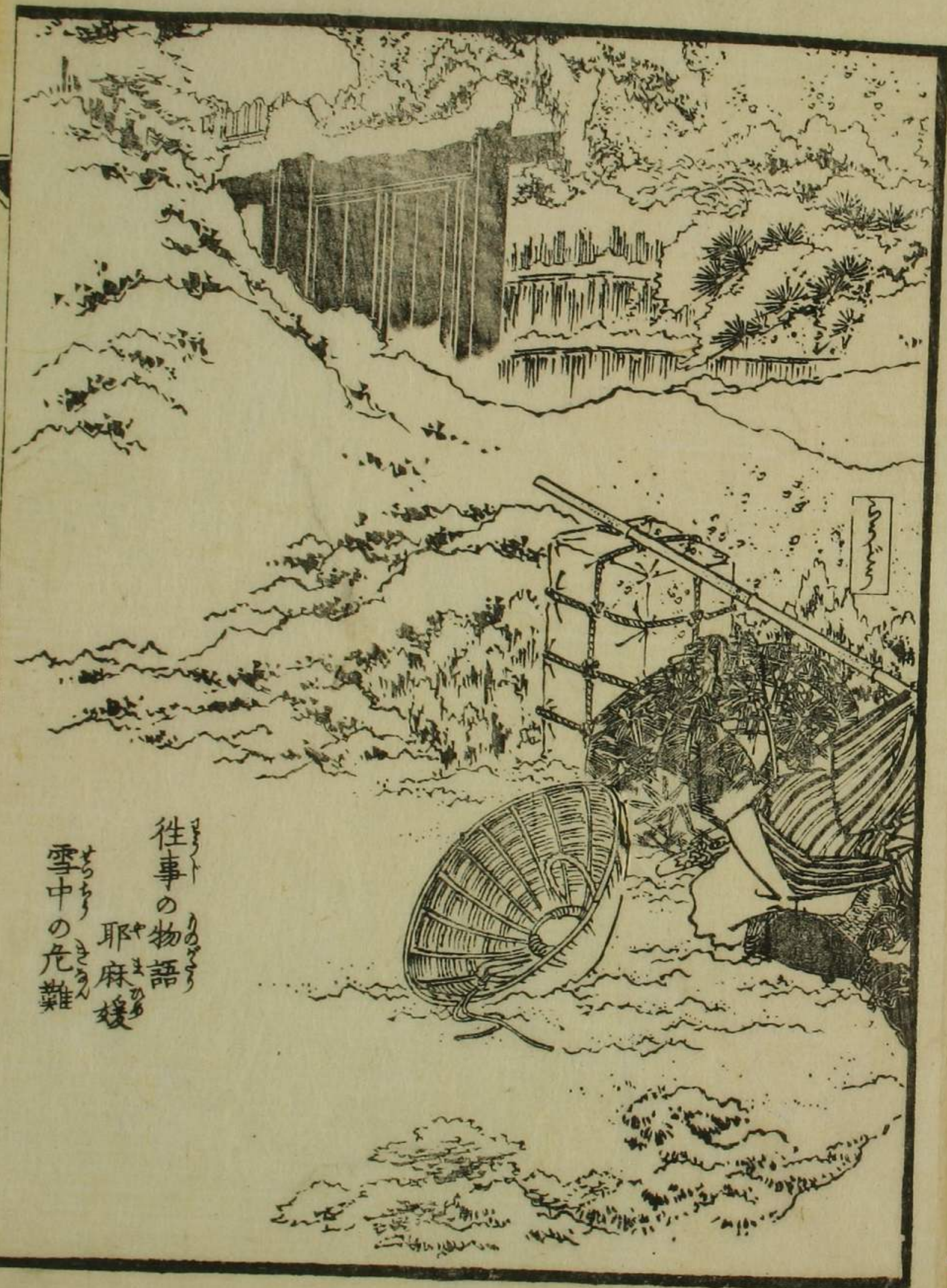
の。為。小。滅。亡。あり。い。世。の。空。衰。と。く。是。悲。も。な。し。その。四。内。小。推。守。興。世。と。之
 る。出。願。の。一。子。武。五。郎。貞。世。と。く。君。の。四。尊。え。も。他。小。矣。少。く。容。貌。優。美。の。若
 武者あり。持。を。り。て。耶。麻。媛。を。と。と。が。深。家。小。と。屢。の。望。小。う。り。然。由。あ。ら。ぶ
 と。遙。く。吾。場。へ。下。り。即。婚。姻。整。ひ。く。比。翼。連。理。と。契。り。も。僅。三。年。の。間。か
 天。慶。の。亂。起。り。將。門。君。の。島。廣。心。の。軍。小。ら。負。多。ひ。り。今。今。も。也。是。也。と。
 五。郎。貞。世。の。主。君。を。將。門。君。小。服。を。ま。じ。敵。の。大。軍。小。割。入。り。人。ま。の。働。い
 く。終。不。せ。延。小。く。陳。没。せ。り。程。々。主。君。將。門。の。亡。び。失。多。ひ。り。が。譜。弟。郎。等。散。り
 小。ら。が。中。小。負。世。が。父。興。世。の。人。む。ひ。や。あり。け。ん。その。所。と。遁。も。出。落。人。と。あり。け。り
 と。農。民。們。小。見。替。り。と。て。雜。入。の。手。小。終。を。え。と。り。て。小。放。り。耶。麻。媛。の。命。活。き
 心。地。の。せ。よ。い。甲。斐。多。兒。身。を。も。存。今。く。泰。正。良。人。の。故。り。田。系。孫。太。秀。郷。を

さがし上平大負を先一太刀恨を復さん。雄も由みひさ下統を忍び
 當時股肱と憑こす。郎従兩個を伴ひて時のやうと續く不負盛の花洛小登
 り。田原秀郷の功小より。鎮守府の將軍と人收地(下向)のしを先達て
 陸奥(下)の動靜を窺ふ。秀郷の頼小由来び本玉ある下野。人馬を惣ひ
 且ひまこと。准備小救且と遠まの空をく不在人。陸奥を渡是前下野
 へ到り。著觀若も秀郷が威勢あり。故し。惣もして仕出く。平次令
 と妻ふ。日更小との詮わさ。且く。潜て時を俟。然も。倅を固る。佐野
 天明と。岐を。狐の意に。隱し。居て。便宜と探る。その中。小盤纏大と失る。ひ
 たり。と。小放り。郎従。高後。や。い。び。お。玉。小。成。り。父。母。小。由。福。一。再。び
 陸奥(下)り。殊。策。り。秀。郷。を。恨。む。ひ。の。り。易。く。と。一。既。小。復。是。可。ける
 小。岐。ハ。嶺。中。玉。四。玉。暴。小。合。城。の。街。と。り。新。関。を。居。軍。兵。充。て。商。賈。賣。買

の旅人ま。輒く通行を。況ん。況ん。南海純友が。由縁ある。老翁。の通り。海を
 名ひ。も。う。び。と。巷。の。風。説。隠。と。あ。け。と。び。と。小。憑。を。失。る。ひ。と。の。虚。実。と。探。る。中
 どの年師老の初旬と。あり。雲。烟。上。橋。の。意。小。未。り。然。る。小。の。日。天。色。暗。く。赤。城
 榛名の高嶺より。暴小吹来る。嵐の利。鋭り。肌膚を。切。心。地。せ。と。く。不。見。小
 由。渾。身。成。慄。せ。と。り。主。従。の。木。蔭。小。潜。み。か。く。道。を。歩。行。せ。と。り。家。小。日。宿
 と。素。ゆ。く。の。寒。風。を。凌。ん。と。四。考。成。遠。不。見。波。せ。と。り。曠。々。と。郊。野。小。余。假
 ぐ。死。家。小。も。と。る。殊。小。昨。日。の。為。暮。小。食。せ。ま。さ。り。夜。通。一。小。路。を。測。り
 小。腹。の。背。小。若。む。と。り。空。く。と。り。の。と。り。小。渾。身。の。齊。力。も。抜。果。く。一。歩。を。違。ぶ。由
 ら。ち。悩。三。個。の。顔。を。見。合。せ。如何。の。せん。と。吐。息。吹。く。折。り。霏。々。降。来。る。雪。遠
 小。便。り。と。と。い。ふ。と。り。噪。が。と。り。俳。徊。何。珍。方。も。あ。り。ね。ひ。の。筑。紫。の。綿。を。撮。り。切
 小。抱。り。と。と。い。ふ。と。り。風。小。誘。り。と。と。降。る。六。出。花。心。長。閑。き。折。り。と。と。色。と。り。愛

心地起ぬく身入りて性先の急ぐとて案内日初ぬ枯草の間小細
 き糸の路をさき雪小徑まてそ起り此起り東西別ぬ野添小呻吟を
 小雪ハ忽地凍りあり一個の郎徒嗟りいんそ起り倒れ凍り解え退り
 廻り心地ハ今今妻時ぞ任名雪吹の烈くともさの小弱るてく声
 張あげて励ませども更小答(中)わりの雪の面を打小楯ごとく今一個の郎
 徒がこもるとえ捨てけんと信後小背く所為あるとぞ空くこと小拍ごひ
 三個の舟の鬼とありま一息盡とる所何方の家小淵子の死身全
 うてその後小ま如何も診方らん疾々来ませしゆわど小こと小至ま
 の公論あり不便あぐも棄たれて送小入るる林彼処小家小わんと空
 憑りて走りが漸件の林の下小至りくるとその構へ負りくざる衡門是
 屈竟ぞ疾弛入りて惠と受んと語らふ端小一個遺り一郎徒の手足纏り

渾身の凍えその修そ起り平伏しう暖やとむう寝さく遠ハ何とせしむ妻
 時ぞ心を空く小持とて呼と叫ぶと其の甲斐ありとてぬが小楯ごとくを暴
 雨の郎徒が凍え死せり小死も瞑てこと小ありて眩暈そ起り倒れとて前
 後をみるべ良ありて旅客よ遊子とて呼り夢の耳小多たて不國眼を同け
 ばこの家の書院まての廣らある坐敷ありのま如何もと寝顔
 こそ起り集舎一人くぐりて起る容を做し旅客心の著ありとて山腰角太夫
 とて叢所の郷士おはせや今小前ありて兩個の旅客雪小凍え倒れしと下僕
 が知れせしむく主人主従もさす容子疾早入とて分抱せよと人を集
 舎に焼火を逐暖むとて從者の方の柳の憑りて身ハ胸小濡りあ
 るをぬく小母まの初茶を合ませる小息からとて大慶との故問ま
 然しけしむ病の病ありんまの實くと保養むと備物欲く思ひあり



往事の物語
 雪中の危難
 耶麻媛



平太右衛門

善知第三輯 卷之五

粥小まき汁おされ望こころと懇ある言察小心落居り。従者の雄士はさき
 かかりぬと嘆息する。更弱果と胸の裡生る心地はあつねも心弱く
 核りしをさすり湯を乞ひ粥を乞ひ渾身漸く暖まらば元來他の疾小
 りん。その日黄氏自至りといふ事おぼゆる心地おひかくて主人の正服小面
 余あり終を述べ依り上の情少い。彼処の野辺小今一個の従者も凍え倒
 まさう。時刻終ぬとさういふうく小獲生らんといふ事あけきと。その終小人考
 傅食とあま人も心憂一願する。その亡骸とて処小怪とていふ事と嘆く件の小服
 由。元來情あつねのさきと人をはり雪の中より。かの死骸をも尋りて来させ。夜
 程近きころ北郊一片の煙とあつね。初めに股角大夫の来歴を問ふと
 小妾が生きた中おむく郷士の嬢小侍らうと。兩親ともお世を早う便すか
 き身とある折らう。陸奥人小唆りきと。従者兩個をおくふ人共小陸奥人

下りながら、足付りやその人、人内、怪しむわん、小既小あ、の身を宿枝女小泣く
 とあつね、計杖をさく暴らう、孩童、従者等共小走、出本街道を帰るが
 備、遊手のかわや、と野越、心越、の目、未艱難、辛苦と凌ぎ、昨夜、小既小終
 夜宿、をさういふ、奔走、をさういふ、雪吹、小違、の旁、上小身、の凍え、主従三
 個、の雪の土、さういふ、の情、あつね、人の門、を小行、倒と救、ひらる、極、さういふ、七、びの世を
 易くとも、忘まら、さういふ、と偽、り、時、小把、の方便、を被、り、さういふ、小若、をさういふ、涙、さ
 しごと、存、さういふ、けり

第二十四

耶麻媛、塙小足、を註む
 婦女の、驍勇、雲竜、を挫ぐ

角大夫、は果て、諸共、小吐息、ゆき、世、小命、ある、人、あり、けり、今、物語、の、下
 あり、故、に、遙、く、帰、り、も、何、の、樂、も、さういふ、と、殊、小、此、程、中、玉、路、の、南海、の、城

純友兄弟降起しつて修禪の街輒く性未あり雅し。まう且くつが家小
 狂世の榮勢を俟て在下のんるる。鬚髮老き筋もあ。七十の餘を
 七、齡のいつく顔けど千の人の老のわぬ。世小憑もしては。老るる死人を
 養ひこの家跡を譲らん。親しき老小語り。心小快ふ老もあ。且暮
 小その下成案ト忍れ時。さるけとど。まご時節の未ねるあり。心小
 明らも。送る月日小ひきまわ。あがて死懸懸ある美女の未らん。六律を
 一尺卒示小似。こと。ひびき。世間小憑わ。トと。覚ゆ小今より已く讓
 たり。あが。死塔と擇と。らん。身小配世家跡を譲らん。此と如何小
 以掛ら。ま。此方小望ある。身し。ま。このひ雅く。右も左も。回参り。その
 傷の濟り。り。け。夫より。後。心服夫婦。只。管懐し。心ひ。り。その。難る。今。秋
 少。却。心。中。穩。あ。い。ん。然。と。ど。今。更。小。何。く。い。へ。死。祥。も。あ。け。と。ど。今。日。と。過。ぎ

明日と送つて五年の程を終ぬ。此の南海の純友兄弟滅亡し。その内小
 或の討と或の運電あけ。い。ひ。う。う。う。小。吾父の教養。わ。い。つ。小。ど。未。末。の
 考。う。う。う。う。小。子。傷。を。道。と。一。命。を。保。る。老。の。あ。る。ま。が。吾父君兄弟。と。元。末。並
 家三の老道とせ。道。も。せ。主君と。恨。み。南海の泡と。消。れた。る。う。え。死。海
 唯小語らん。樹もあ。い。ん。且。暮。小。人。知。と。世。小。あ。れ。人。と。想。ひ。あ。い。併。小。對。ふ。あ
 時。の。回。向。り。う。あ。り。け。ふ。その。頃。ま。赤。依。の。藤。小。雲。龍。九。郎。と。う。輝。光。せ。元
 頼の悪徒あ。り。け。ふ。従。ふ。考。の。多。き。小。す。り。威。勢。を。我。國。用。小。等。一。上。を。凌。ぐ。の
 校考あ。い。と。ど。か。く。考。境。小。在。を。り。幸。小。罰。せ。と。い。成。と。も。高。家。小。到。り。
 威勢をり。成。を。借。り。賭。博。と。賭。酒。を。肆。と。ん。腕。帽。の。と。人。の。嫌。り。必。く
 一時。兎。兎。を。三。十。人。を。り。従。て。心。服。が。家。小。未。も。及。近。曾。親。小。死。系。と。腸。と。

根とせよ。内院ありとて深慮の世に好むる者も及ぶ。床しこの世に
ありしが昨日園らばその美女が物に端を親く世人の言ふ差ひあり。都小稀
あ。天女の影向争このまゝに遣さん疾より集が壻を採るとは。然るも有り交。
僕侍我の陣弟あり。今よりこの家の壻とある影のひ入る。たゞの香とりの香
後引し強持まづこの家を踏潰ともおの往べし返答のふと侍若元人を
怒りありし服の健あるとて七十を都く翁の争ふ集小敵對し成海人奴僕
も救ありぬと。食後人ゆく是等の要小とせき老日あり。まづ果ありの
珍方あふべからずと服角大夫の詩を界し移正あり。いふ壻を索る最中
この洗りゆく名さく言ふに和殿が壻あるん。身小丸く人の幸多し。いふ男
女の源の強小親く自由。難く譲れも克つて。舌の回答の近き程小
七よりと。言さるん。まづ今宵の侍とる。いふ懸懸小速るゆ。然らば。いふ

まて回答を僕人必夜を差ふる。いと権柄小散。動也。いふ侍ら後形見
送りく角大夫の小せす。いと吐息吹き。このよ。語らば耶麻媛の疎くはる雲
竜九郎人もまげある。无控の拳動畢。竟る家の老人夫婦の他小然るま。人の
るれをえ遠く程茂る。情さ。疾く然る。夫を答む程も。下風の兒
兒噪ぎ五珠小。よりある不憶閉淨。も有りやせん。三十六計。復詐小手あり。その
意小任と壻小。做さんと回答。いふ。初くと秋入来ら。妻の帳内深く。潜る。
その席へ。いふ。いふ。身小夫婦。程小。舍釈て下風を返。雲竜のこを
駐む。いと。渠帳内へ。入り来。下妻理を説く。その小退。也。再び。か。は
難題を。いふ。いふ。小園。いふ。備。ま。その。理。を。使。入。ま。び。妻。が。力。小。及。む。び。世。身
を。任。ま。ま。の。て。他。小。忍。り。て。わ。る。ん。然。る。言。得。い。の。て。程。よ。く。計。も。い。ふ。い。ふ。人。覺
東。る。と。い。限。も。い。わ。ね。ど。他。小。珍。方。わ。ぬ。を。い。ん。然。ら。ば。い。ん。身。小。任。は。い。昔

新小人をいへて、勢をそとせしむるに柳勝る方小をともち、歎くこと叙せしむる
 折る九郎が使とて、その回答を促さるる角太夫夫婦の五世娘耶麻媛に
 語る。処右日左日と言ひ小する。日柄を擇み、楯相の式を整えしむる。此由
 通し、ついでに使の喘、馳りて是を告ぐ。雲竜大不敏びく吉持小任
 一種の物を整へ、身控りて、門前狭しと失れり。遠の結納の祝儀とて、婿と
 べし服をいと謝す。その使者下奴小至るまで、答應して帰しけり。その明の日吉
 目とて、その黄昏を待つけり。雲竜九郎の平生より、ついでに華や小身と飾り
 下風の兜兒十四五名あり、衣服を更衣せしむる。前後左右小従ひて、徐く入来り
 角太夫も、言聞まひ、出迎へて、その席を領ち坐小就せ、頼り儲の酒散所
 せしむる。雲竜とて、その答應の大ききあり。主僕ハ醉を竭せども、まづ新婦を
 坐小もせしむる。九郎のいへり、不興とて、いへり。故とて、問はる。小不敏が、深氣をそと
 せしむる。

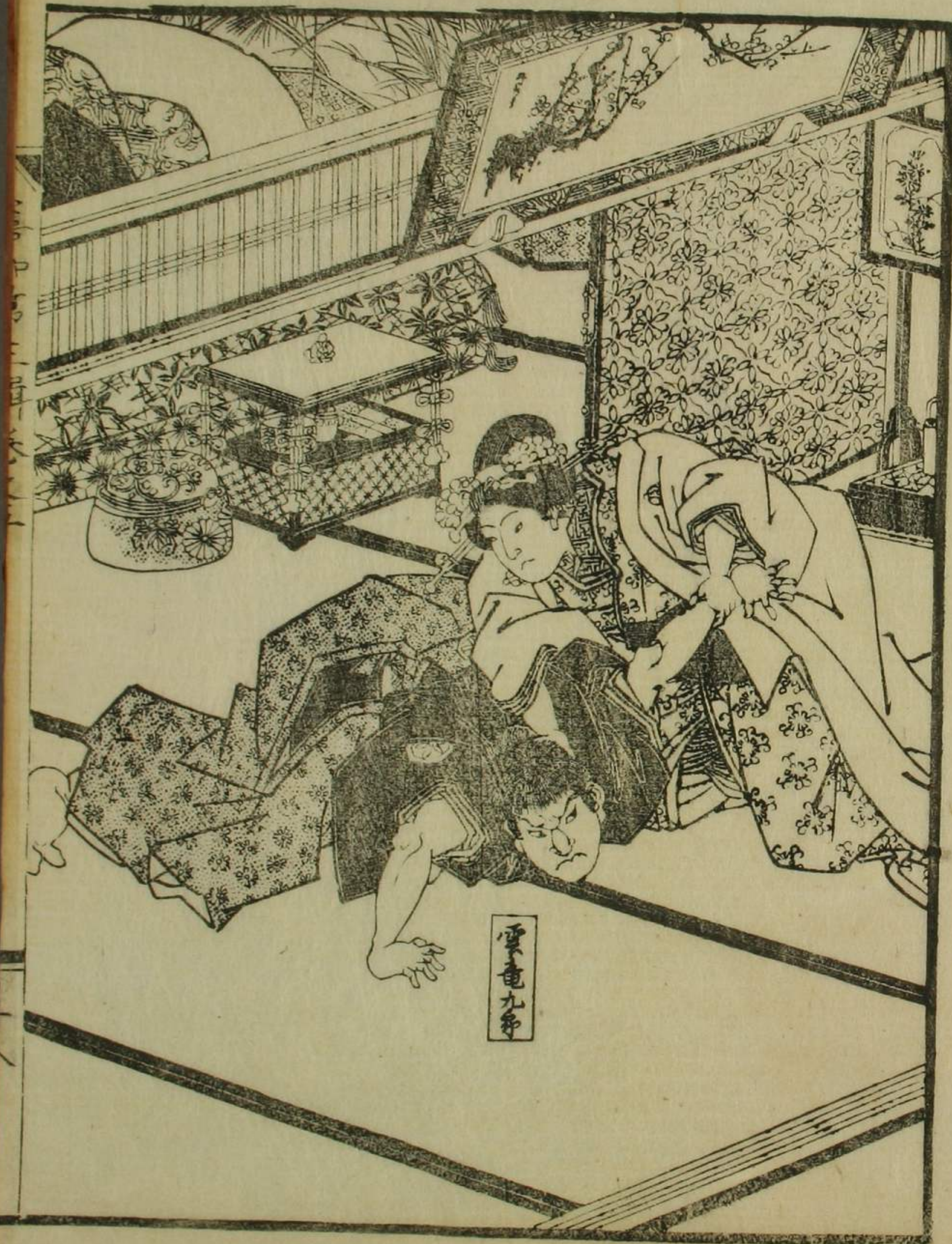
小舟より出て、蓋をも清き、以て告あますと。年を二十を越す。居て、父
 母の手許小養ひて、他人小見えず。とあけしむる。秘然と帳内深く、入ぬ。の
 身を動かさず、海強人も不便あり。そのまゝ、小做しむる。酒饌果て、供人の
 残り、多く用ひて、和殿一個とあり。生涯連配、良人之争、途へて、さ
 しく、雲竜も、ありける。を、你達ハ疾く聞け。と促さる。とて、下風とも。こゝろ容
 小持を、速く、或の浪、冷しく、足の踏所も定まらば、小唄謡ふ。侍あり。雲竜
 九郎ハ、正服の渾は、案内小奥より、耶麻媛の国小ゆけ。燈火大さ。由、出
 白妙の羅を被ぎ、え、襷の片、蔭小潜りて、あを、と、より、雲竜徐く、侍小修り
 副ひ、その小愧る。と、わ、ある。目来の、名、小漸く、小達きて、今宵、新枕千代、も、わ、え
 らぬ。妹と、背と、あ、ま、き、りの、を、何時、ま、たり、顔、さ、る、せ、で、隠ら、ぬ、現、小恍惚、を
 とい、わ、え、小心、裡の、覚、来、あり、ち、解、め、り、手、を、掛、ま、り、下、耶麻媛、被、ぎ、て、羅

とくは侍小抱も取を改め兩の手段膝小おたて雲竜九郎が頼るも守りて言
 ひきつ凡と妻を娶る者い媒をいこと言しゆ互の玄中熟く後結納し縁
 目柄を定め行を控ゆる人然る小様を以てせ自身来るのこあはるは
 弱の権を以て元頼放蕩の祥を吐き威しくも玄の任不せんとい不格不義法
 を秘め妻不幸いとい腹が癪し侍もこと苟くも先祖をのぞ藤原氏天兒
 屋根の神孫也く孫足公の苗裔之痛流庶流の差別を以て今民間小あはる
 ぐ不仁不義の族を以て良人と冊く身を以て持て然も義父母の命あり
 ともその言少く従ぐり汝が渾家とあはるるは備後を以て怒しせむ妻が身
 如何小も做まへし義父母の汝が玄小従ふ一点なりも恨あつた蓋世界の廣
 大なる人物の勢きと原野小生る茅のどく汝が玄小依る女子数百人も
 ぬく一固よりとことと秋なき者と挿へて挑まんより他を索むるを大不信らあ

然小わがやとけと云竜阿くくち笑ひ吾汝が父と称もて腹小高後人
 今より渾家と定ゆる今宵小至り彼此くつと心悟る小その身を銜ひて人を
 預し不義不格と罵るるを法小違ふと云るそその舌の根を断離再び阿
 呼の初さぬぬたり小做まけと可憐按の若木の枝折らんも海殺風景昔
 性質の世系未歴か今さうの人も詮あるて汝い女で緯を知り昔顯宗仁賢人
 皇歴代の天子之然る小その倫その父も市を押替へる人雄略帝小害せし
 はその兩個の子億計に計ある人罪を以て丹波小奪りその後播磨の赤石小
 道も姓名を更へ屯倉の首忍海部の細目が家小奴僕とあり牛馬を飼ふ此
 後を司未目部の小相澤小困人皇孫を知り直小若法小之い言ひ天皇小税
 小の頼小兩個の王を逐へ億計を以て皇太子とい天皇朋むる暗小奪り弟の王
 計を以て天子の位を嗣りりその朝むる後見の億計を位小即ちありか

尊き身まゝ奴僕もあつた時の運業為政が世系と恭くあつた人
 白頭も後論の措きかまを察し心を汲み今宵一夜の徒容よと細繆かき
 初除くこの後者も元後おせその恨も恨もあつた事未歴さ
 まに古今の事蹟とわづ吾身の人を願ふに頼む速れ辱しむまば此とき
 件の雲竜九郎の手別き女子と看せざるう。破く白眼右手を伸く懐か頂
 を搔攫し論小も足らぬ女子と捕て物頼抵も大人死む。あふふく詞と
 畫し理法と説くも解ありるらぬ我を五人とあつた此方小もまに於方あり所
 面さく徒らさう。然らぬがあの怪振り殺して自業自済を曉らせん。脅力に
 任しくし傍るその手と拵ひ雲竜が腕緊と揪るより速く捨り返せその痛
 こ五體も麻木さうなり。嗟やといひ平浪伏を海より。耶麻接膝を
 揚げ背を曳く推著る脅力の量り知りが。金剛神小対ひくも。あつた負

下り誇るも雲竜が身い碎るむ。怪難けとて声を揚げ許せしう。倍授
 こと。些日候も顔さう。涙も。泣くも。人の天地と同一く不能と憐と
 こ弱き成枝け己が長おる所を。他の後も。所を補ひ郷里小篤く長者を教
 ひつた。産業と務る。良民といふ。你も。知りありぬ。然るに僅の嗜欲と怒
 ひ脚脅方のあつた負。人を傷り。不義暴虐の限りと做し。身を樂む。その行ひの
 邪ある。吾日未より。怖むと。と。拘ひら。身あり。わ。餘所小の。流る。徒偉
 あつた。こと。と。あ。小。未。の。汝。を。善。不。導。く。健。あ。ん。と。あ。ふ。く。世。可。辨
 其傍近く。小成傍。今。嚴。不。滅。さ。ま。心。を。誦。一。今。より。善。不。飯。せん。と。頼
 この苦難を許さ。然るに。この修繕。殺。く。土地の害を除く。の。如何。あ。く。と
 背を殺す。雲。竜。若。小。信。ひ。く。這。り。過。り。く。わ。智。量。の。得。人。と。知。人。情。慾。と。癡
 人。迫。り。身。の。罪。曾。い。宜。人。一。任。一。付。ま。克。肝。小。路。下。り。今。より。後。心。を。及



世の害ありては許しなく鬼の目も涙なくも倍移りほど猶見と惚
 さん。み澤身の苦きまふかしのくも統詐るえ事言わの喉本道と熱
 さ忘とく種々の罪ををる人の眼赤く見え透たう吾の智今一回世を
 せむ許し遣し責らんと苦き息をへし吐きつる偽りもど備の持不
 差ひる技録の神一法の罰を愛赤城の社妙義権現その他去所鎮りふ
 神明佛陀の冥罰を蒙るべき也。つふふ人耶麻接いよと不御偽るふ今
 むろの許さん敷る勝を後むと雲竜の面らぬ敵を漸く遠く入接る
 手足と自ら摩り物をもて枯鹿と穴を失く孤の如く逆をも又穴く出退と接接
 を窺ふと服夫婦接よりく許りひるぬ小ぬ大力を双利は此世の惶とも
 歎ぶ顔をうち祝や入る女子の腕と嘲る人もあはれと身不降か底
 狂多し初計らひゆるあり然るく克ん小渠あつく小悪心を誅まふに至る

己が罪道の願妻が為小恥辱を受る牙を怒とく人の家小災の彼さん
 必之今より内外を敵守る不義は小奴為小律の由を以合も備も怪と必
 してわら頼る若知世よ。更小法は甘きり。夫より後西三年更小侍接
 由未だあまの風説の空不義を我を揮ひ罪道をる人の際あり程の
 便る。己の成り忽ち本く。心を著すと下僕の憤の作めとをわと後六懈り
 勝おるけをり一夜風つ烈く小雲竜の下風と従同上二箇所小大と放つ備忽
 地獄小あり。頃刻の心腹が莊の都へ鳥有とる。因く把りのもさう敢て道
 に出く角太夫の健多と八十の翁煙小捲とく倒し。その後小息出たの
 亡骸の菩提院へ葬り。ととと。毎し憑り。極定とと。性方をとせられ
 不便すと失ひて相識の方小耶麻接の其時食客とありけと。一日に時
 安備と。あ小懇る人あり。身心雄々。且暮衣食小窮く。何事

ちを克志き因小破く群馬の玉府小坐あり國の守此頃側室を抱へん普く
 尋ねぬや。以身が標致双び多く一回彼処小漏りあが首尾整ん必き之を思ふ
 心小懐ひ一後義父心腹が雙しき雲竜九郎を殺さず歎け最國の巨害を除
 く一端あるまは玉府の人殺を假し討せんとて吾儕が論を待たうばこそ一舉に
 両全の誅小あらず。赤心を以て勸むる心程少應ぜども將の難易の是非
 ありふとの詞小旋ふりあり。その人玉司小傳あり下目より十代田小南後あき
 ば速小律整ん耶麻接を伴ひ来ん云々。語る小くくまの女子とんま利
 一を攘世小あはれ老し憐れり必ひ一ものを不憶再び家々相るて夢を現う
 定ゆるく。早きとる父子の再合後も後き如何のべ。小在だも互の不審夫
 より事小注めむ。彼雲竜を討す。必ども是等の枝葉の論君臣の義と
 傳らしてす。人道の本なき。忘るる。少あねども今小放り雲竜と安

穩小做しあけり。早苗今が長物語れ旭の言く輝く多る。近平の吹果ん。
 感激の他あり。老女も日耶麻接の脅力のや。忌怖小位び。その未歴をばく
 久い在下是より心を固し。屑ありわねども。和君等父子小力を合さん。然小
 人も重大郎高徳れ。吾黨の君と作げ。その人あまこと。あの家小むをり。此
 條ありて成り。その早鬼石へ人を弛せ。その有を成探る。多くと。吹ん鬼小早
 苗今心利。老僕小云のより。ひ合も。鬼石の御へ遣し。下耶麻接近平
 小うち對ひ。世の常言小万幸の満る。易く一將を六海。と。吾們國
 ら。和殿。ぞ。英傑小國。と。其翅をけ。心地。備小一ツの功をり。久。私教
 罪を購ん。言。さ。他。多。此頃。志の。風。説小。岐。獲。正。塞の。首領。の。うち。
 名。何。と。殺者。あり。先頃。より。く。この地を。竊ひ。草。賊。等。を。従へ。この。邑。外。と。ふ
 伝。飛。あり。獵。夫。弓。六。と。い。り。の。家。小。隠。り。ひ。在。し。めて。小。ふ。と。家。の。金。後。小

富のしり言を吹。虚を計つて打入ると巧者のいし者々々。然るに世方
 より遊寄しく集るが首を伐。並ぶる家の難を避け。一は必司もその威に
 忍まぬ。後頼不遊びてあける。その山城の二将を誅する功。我干と志と。豫
 へおのひの廻らせど果敢と。しき郎等もあはれ。暗し要心するのこころ。と
 今和敵を潰く。その城を撃んて。つと易く。和殿勉め。働らき。その功
 小より。前日の罪科の頼不購ふべし。あて如何。小と。誇り。里え。いはい
 欣然と。一談。不及。も。頼不。さ。る。準備。を。あ。す。べし。と。老生。管。鳥。威。引
 板郎。不。も。あ。て。成。彈。ら。ひ。て。疎。く。武。藝。と。お。り。お。た。は。は。僕。等。を。假。り。耶
 麻。接。の。男。装。不。打。拾。く。城。を。撃。ん。と。失。め。た。ら。り。畢。竟。あ。の。後。奈。何。の。ら。る。
 第四編 不分解 上
 善知安方忠義傳第三輯卷之五 終

和漢 西洋 書籍 賣捌 處

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛

大阪心齋橋博愛町角

